

**スポーツ施設利用者の利用目的に着目した基本的情報の整理  
－アンケート調査の自由記述からの検討－**

阿部 征大

**Organizing basic Information focusing on the usage  
purpose of users of sports facilities:  
Investigation based on questionnaire survey comments**

Yukihiro Abe

**神戸医療未来大学紀要 第23巻 第1号**

(令和4年12月)



## <研究ノート>

# スポーツ施設利用者の利用目的に着目した基本的情報の整理 —アンケート調査の自由記述からの検討—

阿部 征大

## Organizing basic Information focusing on the usage purpose of users of sports facilities: Investigation based on questionnaire survey comments

Yukihiro Abe

This study aims to extract the reasons for using sports facilities, and to organize basic information to be used as future research materials. A questionnaire survey was conducted with 600 users of exercise and sports facilities, and the results were analyzed using attributes and comments on the purpose of using sports facilities. The results could not confirm the relationship between the ratio of facilities installed and that of facilities used, but the public or private nature of the sports facilities was found to play a role in their usage. Men used public sports facilities more than women, while women used private sports facilities more than men, and those in their 40s or older used private sports facilities. Moreover, although items such as health and physical fitness showed no differences in the reasons for exercise and sports and for using the facilities, differences were found in the item of seeking self-improvement. Sports facilities were found to be used because they enabled participation in sports at a low cost, and due to the desire to interact with friends, and the presence of instructors.

**Key words** : Facility user, sports facilities, Basic information  
施設利用者、スポーツ施設、基本的情報

### 1. 緒言

第3期スポーツ基本計画<sup>1)</sup>において、「国民がスポーツに親しむ上で不可欠となる『ハード(場づくり)』『ソフト(環境の構築)』『人材』といった基盤を確保・強化するため、場づくりや環境の構築、スポーツに関わる人材の育成等を進める」という政策目標を挙げている。その中でも、「社会経済の変化に伴う住民ニーズ(量・質)の変化に応じた計画的なストックマネジメントの下で、地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しむ

ことができる場の量的、質的な充実がなお一層求められている」という現状から地域住民が気軽にスポーツに親しめる「場づくり」の実現を掲げている。さらに、政策目標を既存施設の有効活用やスポーツ施設以外のスポーツができる場の創出<sup>1)</sup>としているため、スポーツに親しむうえで、既存の施設や新たな場の創出は重要な位置付けとされている。

スポーツ庁(2018)の体育・スポーツ施設現況調査<sup>2)</sup>において、体育・スポーツ施設は「学校体育・スポーツ施設」「大学・高等専門学校体育施設」「公共スポーツ施設」

「民間スポーツ施設」に分類されている。さらに我が国の施設設置数は、187,184箇所であり詳細な内訳は、学校体育・スポーツ施設113,054箇所（60.4%）、大学・高等専門学校体育施設6,122箇所（3.3%）、公共スポーツ施設51,611箇所（27.6%）、民間スポーツ施設16,397箇所（8.8%）であり、体育・スポーツ施設は平成8年以降継続して減少傾向にあり、学校の統廃合や施設の老朽化によることが原因であると報告されている。笹川スポーツ財団（2020）の「運動・スポーツの実施場所・利用施設の調査報告」<sup>3)</sup>では、過去1年間の「よく行った」実施頻度の高い場所・施設で示されたのは、「道路（57.3%）」「自宅（庭・屋内等）（32.9%）」「体育館（17.1%）」であった。この背景には、新型コロナウイルス感染拡大の影響により自宅周辺でできる運動・スポーツが増えたと考えられている<sup>3)</sup>。しかしながら、体育館が上位項目として報告されているのも現状である。このように、近年、運動・スポーツの実施場所や利用施設は生活環境の変化に伴い多岐に渡っている。さらに、体育・スポーツ施設は老朽化に伴う施設数の減少や既存施設の有効活用の検討も挙げられており、既存のスポーツ施設に着目することは、今後のスポーツ振興においても意義のあるものであると考えられる。

スポーツ施設の利用者に着目している研究は多く蓄積されている。施設利用における利用者の満足度に関して調査しているもの<sup>4)~7)</sup>、さらには、スポーツ施設利用者のライフスタイル<sup>8,9)</sup>やスポーツ行動に着目し、構造化した研究<sup>10)</sup>が実施されている。このように近年のスポーツ施設利用者に着目した研究は、施設に対しての満足度や利用者の生活様式・行動を明らかにした研究が多く行われ、スポーツ施設利用者の特性が明らかにされてきた。また、スポーツ庁のスポーツ

の実施状況等に関する世論調査<sup>11)</sup>において、「運動やスポーツを実施した理由」の上位項目が、「健康のため（76.2%）」「体力増進・維持のため（52.0%）」「運動不足を感じるから（48.1%）」と報告し、スポーツに関する国民の意識を把握し今後の施策の手掛りとしている。しかしながら、スポーツ施設利用者限定した調査ではないため、運動・スポーツを実施する理由とスポーツ施設を利用する理由の差別化を図るためにスポーツ施設利用者限定し調査する必要がある。

既存のスポーツ施設の有効活用や生活環境に対応した施策を検討していくには、スポーツ施設利用者の特性やスポーツ施設を利用する理由の基本的な情報の把握が手掛かりとなり、今後のスポーツ施設研究において有意義な資料になり得る。

そこで本研究は、スポーツ施設利用者の施設を利用する理由を抽出し、今後の研究資料となり得る基本的情報を整理することを目的とした。

## 2. 研究方法

### 2.1 調査対象者

本調査はインターネット調査会社（ネオマーケティング）を通し、2021年3月に全国の運動・スポーツ施設利用者（部活動・サークル活動などの団体利用は含めず、個人利用に限定）600名を対象にアンケート調査を実施した。本調査はインターネット調査会社を通じて行ったため、調査対象者に対し、調査実施前に調査内容およびデータの使用方法等の説明や同意については調査会社へ委託した。その際、無記名による調査のため、調査対象者に不利益が被らないことを調査会社へ伝えた。尚、本調査は神戸医療未来大学倫理審査委員会の承認（管理番号：2020015）

を受けて行った。

## 2.2 調査項目

### 2.2.1 基本的属性

調査対象者の基本的属性は、「性別」「年代」「居住地域」「職業」を設定した。居住地域に関しては47都道府県を選択肢として設定し地域区分した。

### 2.2.2 スポーツ施設利用について

調査対象者の運動・スポーツ施設利用に関して、「利用施設」「利用頻度（月）」「スポーツ施設を利用する目的」を設定した。利用施設に関しては、「学校体育・スポーツ施設」「大学・高等専門学校体育施設」「公共スポーツ施設」「民間スポーツ施設」のスポーツ庁が定める4つに分類<sup>2)</sup>し、主に利用している施設の回答を得た。尚、「スポーツ施設を利用する目的」に関しては、自由記述にて回答を求めた。

## 2.3 分析方法

本調査の統計処理はSPSS Statistics 25、KHCoder3を用いた。

### 2.3.1 単純集計

調査により得られた結果について、調査対象者の「性別」「年代」「居住地域」「職業」「利用施設」「利用頻度（月）」に対して単純集計を実施した。「性別」と「年代」及び「性別」「年代」と利用施設についてはクロス集計を実施した。

### 2.3.2 自由回答のテキストマイニングによる分析

「スポーツ施設を利用する目的」を自由記述にて回答を求めて、得られた結果についてテキストマイニングツールのKHCoder3<sup>12)</sup>を用いた。

## 3. 結果

### 3.1 基本的属性

表1は、調査対象者の属性について示した結果である。性別は「男性」71.2%、「女性」28.8%という結果であった。年代は「10代」0.3%、「20代」2.0%、「30代」13.5%、「40代」25.5%、「50代」27.7%、「60代」31.0%という結果であった。

表2は、調査対象者の属性について示した結果である。居住地域は「北海道・東北地方」7.6%、「関東地方」44.8%、「中部地方」14.8%、「関西地方」19.3%、「中国地方」4.2%、「四国地方」0.8%、「九州・沖縄地方」8.3%という結果であった。職業についての上位項目は、「会社員・団体職員（正社員、教員）」42.7%、次いで「無職・休職中・求職中」11.0%、「自営業・個人事業主・フリーランス」10.0%という結果であった。

表3は、「性別」と「年代」をクロス集計した結果である。「男性」は「20代」41.7%、「30代」56.8%、「40代」63.4%、「50代」78.3%、「60代」80.1%であった。「女性」は「10代」100.0%、「20代」58.3%、「30代」43.2%、「40代」36.6%、「50代」21.7%、「60代」19.9%であった。

表1 調査対象者の属性

項目		度数	%
性別	男性	427	71.2
	女性	173	28.8
年代	10代	2	0.3
	20代	12	2.0
	30代	81	13.5
	40代	153	25.5
	50代	166	27.7
	60代	186	31.0

n=600

### 3.2 スポーツ施設利用について

表4は、調査対象者のスポーツ施設利用に

表2 調査対象者の属性

項目		度数	%
居住地域	北海道・東北地方	46	7.6
	関東地方	269	44.8
	中部地方	89	14.8
	関西地方	116	19.3
	中国地方	25	4.2
	四国地方	5	0.8
	九州・沖縄地方	50	8.3
職業	会社経営者・役員・団体役員	26	4.3
	会社員・団体職員（正社員, 教員）	256	42.7
	会社員・団体職員（派遣, 契約社員）	43	7.2
	自営業・個人事業主・フリーランス	60	10.0
	自由業（開業医, 弁護士事務所経営等）	6	1.0
	公務員	19	3.2
	学生	6	1.0
	主婦・主夫（専業）	58	9.7
	パート・アルバイト・フリーター	56	9.3
	無職・休職中・求職中	66	11.0
	その他	4	0.7

n=600

表3 性別と年代別のクロス集計表

項目	10代 (n=2)		20代 (n=12)		30代 (n=81)		40代 (n=153)		50代 (n=166)		60代 (n=186)	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
男性	0	-	5	41.7	46	56.8	97	63.4	130	78.3	149	80.1
女性	2	100.0	7	58.3	35	43.2	56	36.6	36	21.7	37	19.9

ついて示した結果である。主に利用している運動・スポーツ施設は「学校体育・スポーツ施設」8.7%、「大学・高等専門学校体育施設」0.7%、「公共スポーツ施設」39.2%、「民間スポーツ施設」51.5%という結果であった。施設の利用頻度は、「月1~3回」41.5%、「月4~6回」24.8%、「月7~10回」16.7%、「月11~14回」2.0%、「月15回以上」15.0%という結果であった。

表5は、「利用施設」と「性別」をクロス集計した結果である。「男性」は「学校体育・スポーツ施設」9.0%、「大学・高等専門学校体育施設」0.4%、「公共スポーツ施設」42.2%、「民間スポーツ施設」48.4%という結果であった。「女

性」は「学校体育・スポーツ施設」8.1%、「大学・高等専門学校体育施設」1.2%、「公共スポーツ施設」31.8%、「民間スポーツ施設」58.9%という結果であった。

表6は「利用施設」と「年代」をクロス集計にて示した結果である。「10代」は「公共スポーツ施設」50.0%、「民間スポーツ施設」50.0%という結果であった。「20代」は「学校体育・スポーツ施設」25.0%、「大学・高等専門学校体育施設」8.3%、「公共スポーツ施設」16.7%、「民間スポーツ施設」50.0%という結果であった。「30代」は「学校体育・スポーツ施設」17.3%、「大学・高等専門学校体育施設」1.2%、「公共スポーツ施設」40.7%、「民間ス

表4 スポーツ施設利用について

項目		度数	%
利用施設	学校体育・スポーツ施設	52	8.7
	大学・高等専門学校体育施設	4	0.7
	公共スポーツ施設	235	39.2
	民間スポーツ施設	303	51.5
利用頻度	月1～3回	249	41.5
	月4～6回	149	24.8
	月7～10回	100	16.7
	月11～14回	12	2.0
	月15回以上	90	15.0

n=600

表5 利用施設と性別のクロス集計表

項目	男性 (n = 427)		女性 (n = 173)	
	度数	%	度数	%
学校体育・スポーツ施設	38	9.0	14	8.1
大学・高専体育施設	2	0.4	2	1.2
公共スポーツ施設	180	42.2	55	31.8
民間スポーツ施設	207	48.4	102	58.9

表6 利用施設と年代別のクロス集計表

項目	10代 (n=2)		20代 (n=12)		30代 (n=81)		40代 (n=153)		50代 (n=166)		60代 (n=186)	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
学校体育・スポーツ施設	0	-	3	25.0	14	17.3	15	9.8	10	6.0	10	5.4
大学・高専体育施設	0	-	1	8.3	1	1.2	0	-	2	1.2	0	-
公共スポーツ施設	1	50.0	2	16.7	33	40.7	60	39.2	69	41.6	70	37.6
民間スポーツ施設	1	50.0	6	50.0	33	40.7	78	51.0	85	51.2	106	57.0

スポーツ施設」40.7%という結果であった。「40代」は「学校体育・スポーツ施設」9.8%、「公共スポーツ施設」39.2%、「民間スポーツ施設」51.0%という結果であった。「50代」は「学校体育・スポーツ施設」6.0%、「大学・高専体育施設」1.2%、「公共スポーツ施設」41.6%、「民間スポーツ施設」51.2%という結果であった。「60代」は「学校体育・スポーツ施設」5.4%、「公共スポーツ施設」37.6%、「民間スポーツ施設」57.0%という結果であった。

表7は、スポーツ施設を利用する目的を自由記述のテキストマイニングによる分析結果について示したものである。施設利用目的の

総抽出語数は3,119語であり、出現頻度が高い順に「健康維持」「健康」「ダイエット」「維持」「練習」「体力」「運動」「体力維持」「ストレス解消」「ゴルフ」「スポーツ」…などという結果となった（上位100語（21位まで））。

図1は、スポーツ施設を利用する目的の自由記述のテキストマイニングの共起ネットワークにより抽出された結果であり、10のテーマに分類された。代表的な分類として「健康」「維持」「体力」「向上」「目的」「休養」や「施設」「スポーツ」「仲間」「指導」「交流」「安全」といったテーマが抽出された。

表7 施設利用目的の抽出語 上位100語 (21位まで)

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	健康維持	89	16	好き	10	21	楽しい	5	20	体力向上	4
2	健康	69	17	トレーニング	9	21	健康促進	5	20	体力作り	4
3	ダイエット	30	17	リフレッシュ	9	21	行う	5	20	鍛える	4
4	維持	29	17	筋力	9	21	参加	5	20	通る	4
4	練習	29	17	転換	9	21	指導	5	21	ウォーキング	3
5	体力	28	18	運動不足	8	21	場所	5	21	サッカー	3
6	運動	26	18	交流	8	21	増進	5	21	スキー	3
7	体力維持	24	18	出来る	8	21	体重	5	21	スキル	3
8	ストレス解消	23	18	体型維持	8	21	野球	5	21	ソフトボール	3
9	ゴルフ	20	18	仲間	8	21	友人	5	21	ダンス	3
10	スポーツ	19	18	目的	8	20	コミュニケーション	4	21	チーム	3
10	利用	19	19	バドミントン	7	20	サークル	4	21	バレーボール	3
11	運動不足解消	17	19	安い	7	20	ヨガ	4	21	プール	3
11	体	17	19	試合	7	20	安価	4	21	ランニング	3
12	楽しむ	15	20	やすい	6	20	一緒	4	21	リハビリ	3
12	施設	15	20	楽しみ	6	20	泳ぐ	4	21	一番	3
13	テニス	14	20	器具	6	20	家	4	21	楽しめる	3
14	ストレス発散	13	20	筋トレ	6	20	解消	4	21	競技	3
15	気分	11	20	行く	6	20	技術	4	21	教室	3
15	趣味	11	20	子供	6	20	近い	4	21	合気道	3
15	動かす	11	20	身体	6	20	使う	4	21	自身	3
16	筋肉	10	20	水泳	6	20	時間	4	21	周り	3
16	健康管理	10	20	設備	6	20	自分	4	21	整備	3
16	健康増進	10	20	特に	6	20	手軽	4	21	生活	3
16	向上	10	21	安全	5	20	整う	4	21	走る	3

#### 4. 考察

本研究は、スポーツ施設利用者の施設を利用する理由を抽出し、今後の研究資料となり得る基本的情報を整理することを目的とした。

運動・スポーツ施設に関しては、我が国の施設設置数<sup>2)</sup>と比較すると本調査で得られた主に利用しているスポーツ施設は、学校体育・スポーツ施設と大学・高専体育施設の利用率が少なく、施設設置割合と利用施設割合は一致していないことが明らかとなった。尚、本調査は部活動・サークル活動などチーム単位での利用は回答に含めず、あくまでも個人利用に限り調査を実施しているため一概には言えないが、公共スポーツ施設や民間スポー

ツ施設がスポーツ施設利用の一躍を担っていることが示唆された。長岡(2008)は、学校体育・スポーツ施設は成人の定期的な利用の割合は少なく、地域住民のニーズに十分に対応しているとは言えない現状があるとし、学校・体育スポーツ施設が「地域住民への『場の提供(開放)』であるという考えにとどまらず、施設の『共同の利用』に意識を転換していくことが必要」<sup>13)</sup>と指摘している。さらに、公共スポーツ施設と民間スポーツ施設の利用者を性別と年代で比較してみると、男性は女性より公共スポーツ施設を利用し、女性は男性より民間スポーツ施設を利用していた。また、40代以上では民間スポーツ施設の利用は50%以上の結果が表れている。松永(1999)の潜在的な民間利用希望者は、男性





テキストマイニングの共起ネットワークの結果から、「健康」「維持」「体重」「体力」「向上」「目的」という単語で集団が形成されており、この集団は運動・スポーツを実施する理由とほぼ一致していた。さらに、「施設」という語句が抽出され、繋がりを確認すると、「仲間」「交流」「指導」「安全」「友人」「利用」「安い」等の集団が形成されている。スポーツ施設利用という観点からは安価でスポーツが実施でき、仲間や友人との交流や指導者の存在をもとめスポーツ施設を利用することが伺える。また、「ゴルフ」「バドミントン」「水泳」「野球」等の語句が抽出されており、その各集団を確認すると単一種目を練習するためや子どもとの関わりで施設を利用する傾向があることが示された。

運動・スポーツを実施する理由とスポーツ施設を利用する理由は類似する項目が抽出されることは、当然のことではあると考えられるが、自己の向上という観点で利用されており、本研究で得られた結果を基に施設利用者の構造化や類型化を図り、今後のスポーツ施設利用者研究の一助としていく必要性が挙げられる。

## 5. まとめと今後の課題

本研究は、スポーツ施設利用者の施設を利用する理由を抽出し、今後の研究資料となり得る基本的情報を整理することを目的とした。

本研究で明らかとなったことは以下に集約される。

- (1) 利用しているスポーツ施設は、「学校体育・スポーツ施設」8.7%、「大学・高等専門学校体育施設」0.7%、「公共スポーツ施設」39.2%、「民間スポーツ施設」51.5%という結果であり、運動・スポー

ツ施設設置数と利用施設の関係性は確認できなかった。

- (2) 公共スポーツ施設と民間スポーツ施設がスポーツ施設利用の一躍を担っている。
- (3) 男性は女性より公共スポーツ施設を利用し、女性は男性より民間スポーツ施設を利用しており、40代以上では民間スポーツ施設を利用していた。
- (4) 運動・スポーツを実施する理由と施設を利用する理由は健康・体力といった差異のない項目もあるが、自己の効用をもとめる点に差異があった。
- (5) 安価でスポーツが実施でき、仲間との交流や指導者の存在をもとめスポーツ施設を利用する傾向にあった。

本研究は、スポーツ施設の利用目的の理由に限定した基本的な情報のみの整理であったが以下の課題が挙げられた。

- ①各種学校の体育・スポーツ施設を有効活用できるような環境整備
- ②運動・スポーツ施設利用者目的の構造化・類型化を実施し、より詳細な要因の検討  
今後、スポーツ施設研究の一助となるよう本研究で得られた結果をもとに、年代・居住地・職業・年取等でもグラフィックとの関係性や公共スポーツ施設と民間スポーツ施設との差異や利用目的の構造化や類型化に着手しより具体的な研究を実施していく必要がある。

## 【文献】

- 1) 文部科学省：スポーツ基本計画、2022  
[https://www.mext.go.jp/sports/content/000021299\\_20220316\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/sports/content/000021299_20220316_3.pdf)（参照日2022年8月18日）
- 2) スポーツ庁：平成30年度体育・スポーツ施設現状調査結果の概要、2018

- [https://www.mext.go.jp/sports/content/20200422-spt\\_stiiki-1368165.pdf](https://www.mext.go.jp/sports/content/20200422-spt_stiiki-1368165.pdf) (参照日2021年8月18日)
- 3) 笹川スポーツ財団: スポーツ・ライフ・データ2020-スポーツライフに関する調査報告書-、笹川スポーツ財団、東京、2020
- 4) 神野賢治、田島良輝、井上明浩: 公共スポーツサービスの利用者に関する研究-利用者の特性と満足度に着目して-、金沢星稜大学人間科学研究、2 (2)、53-61、2009
- 5) 北見好、佐野昌行、久木田謙介、富田幸博: 公共スポーツ施設に対する満足度に影響を与える要因-世田谷区公共温水プールの調査から-、日本体育大学紀要、41 (1)、101-110、2011
- 6) 秋吉遼子、山口康雄: 公共スポーツ施設におけるサービス・クオリティ、利用者満足、及び行動意図の関連性に関する実証的研究、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要、6 (2)、1-10、2013
- 7) 福田一儀、住田健、岡崎祐介: 公共スポーツ施設の指定管理者に新たな団体が加わったことによる利用者のサービス評価と満足度の変化について、至誠館大学研究紀要、2、51-58、2015
- 8) 井澤悠樹、松永敬子: 総合型地域スポーツクラブのマーケティング戦略に関する基礎的研究-既存会員の理解に向けたライフスタイル構造の把握-、東海学園大学紀要、20、1-12、2015
- 9) 阿部征大、清宮孝文、依田充代、日比野幹生: 公共スポーツ施設利用者のライフスタイル構造に関する研究: 東京都A区の公共スポーツ施設に着目して、運動とスポーツの科学、26 (2)、149-160、2021
- 10) 阿部征大、清宮孝文、依田充代: スポーツ施設利用者のスポーツ行動に関する一考察、日本体育大学紀要、50、1111-1119、2021
- 11) スポーツ庁: 令和3年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」について、2021  
[https://www.mext.go.jp/sports/content/20200507-spt\\_kensport01-000007034\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/sports/content/20200507-spt_kensport01-000007034_1.pdf) (参照日2022年8月22日)
- 12) 樋口耕一: テキスト型データの計量的分析-2つのアプローチの峻別と統合-、理論と方法、19 (1)、101-115、2004
- 13) 長岡雅美: 地域におけるスポーツ環境の整備充実-地域スポーツ活動の拠点としての学校体育・スポーツ施設の現状-、武庫川女子大学紀要、56、61-68、2008
- 14) 松永敬子: 民間スポーツ施設における潜在利用者の特性に関する研究、人間科学研究、21、121-129、1999
- 15) 米谷正造、木村一彦、小野寺昇: 民間スポーツ施設及び施設利用者に関する実態調査-岡山県における民間スポーツ施設を中心に-、川崎医療福祉学会誌、7、179-189、1997

